

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行  
第五福竜丸平和協会  
〒136-0081 東京都江東区  
夢の島3-2  
都立第五福竜丸展示館内  
電話 03-3521-8494

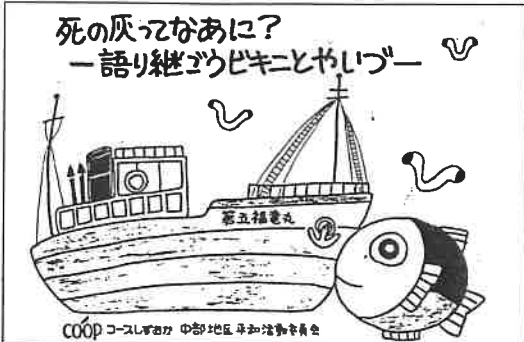
協会の評議員のお一人だった山田英二さん(金沢大学名誉教授)が亡くなられた。実は一月二日に核軍縮研究会(NDJ)という私たちの小さな勉強会にお見えにならないので、電話をかけてみたがお出にならなかった。二三日の朝、見に行ったら布団の中で亡くなっておられたそうである。虚血性心不全とのことであった。電話した時は既に亡くなっておられたらしい。

## 山田英二さんの思い出

原子核研究所の設立や原子力平和利用三原則の基礎のことが議題になっていたと思う。昼食で山田さんと私は「今日はマグロが安いぞ」とけしからんことを考えて寿司を注文した。お寿司屋さんの方がしっかりしていた。届いたのには既に「当店ではマグロは使用しておりません」と書いてあった。

## 服部学

た科学者バグウォッシュ会議の運動をやっておられた。たしか第一二回の会議がインドで開かれたさいに出席され、その後、インドの核政策に強い関心を持っておられたように思う。九五年に日本で会議が開かれたさいには、組織委員会の事務局長として活躍された。二人とも定年退職してからは彼が東京に戻られたのでお会いすることが多くなった。奥様を早く亡くされたので一人で任んでおられた。よく二人で食事をしたりビールを飲んだりした。少し酔うと「俺は江戸っ子なんだ」と言われた。横須賀に来ていただいて講演をお願いしたこともある。CTBTや未臨界実験のことをやさしく話して下さった。最近核軍縮研究会(初めは核拡散問題研究会)で無くてはならない存在だった。昔胃の手術はしておられたが、私よりずっとお元気だった。昨年未は私が入院したので平和学会での報告をお願いしたこともある。本当に惜しい人がいなくなってしまう。山田さん、どうか安らかに眠り下さい。(第五福竜丸平和協会理事・立教大学名誉教授)



「紙しばい」の最初のとびら

「死の灰ってなあに?」  
みなんで作った紙しばいと絵本

私たちは生活協同組合コープしずおかの中部地区平和活動委員会です。平和な社会づくりのために生協の組合員としてできることは何かをまわりに問いかけながら、平和の輪を大きく広げていこうと昨年六月に発足しました。

木暮 和子

とはいもうもの年々平和への関心はやはり薄くなるばかり。焼津市をかかえる私たち中部地区でも、地元でおきたピキニ事件を知っている人が少なくなっています。そこで私たちは是非この事件を語り継いでいこうと、まずは若いお母さんと子どもたちを対象にピキニ事件と、そのことをきっかけとしておこった原水爆禁止運動についての紙しばいをつくりました。

ことになりました。一冊の本になるなら日頃私たちが伝えたいこと、「なぜ生協が平和を大切にするのか」も載せようとか、親子で読める平和の本もたくさん紹介しようとか中味がふくらんできました。

ほんの小さな冊子ですが、メンバー全員で完成させた本。一人一人の思いのこもった本、完成したうれしさをいっばいで、さっそくメンバーの一人が夢の島の第五福竜丸展示館へもお届けしたいとおじやました。



「原爆マクロなんて、こわくて食べられない!」  
「しばらくは お魚を 食べるのはよそう。」

どんなに、お魚屋さんも 原爆マクロではないと書いても 不安で 魚を食べることができなくなり 日本人が、ハニックになりました。 原爆は、その時、日本人の大切な、たんぱく質でした。

「絵本」の一ページ

「3・1ピキニデー」生協虹のひろばの準備にとりかかっています。完成した冊子を武器に多くの組合員にピキニ事件を伝えながら、過去のことでなく、今を生きている私たちに投げかけている問題をいっしょに考えていきたいと思っています。

(コープしずおか中部地区平和活動委員会)

映することにしました。船体をスクリーンに、船に抱かれるように映画を見つめ、乗組員の苦しみ悲しみを共有し、また保存運動の意図を考えたかと思えます。当日は映画製作に関する資料の展示や監督のあいさつも予定されています。参加希望の方は二月二〇日まで展示館に連絡下さい。

日時 三月七日(出)午後五時半〜八時  
場所 第五福竜丸展示館/無料



久保山すずさんのお宅で。すずさん、三人の娘さん、乙羽さんと出演の三姉妹。左端筆者。

夏休みに度々、焼津市にロケーションに参りました。子供は、私達の三人だけでしたから、スタッフの皆さんや出演者の方々からとても可愛がって頂きました。それで、一度目からは、母の付き添いがなくても、毎日常

田三喜ちゃんが三女役でした。両親は勿論の事、ほとんどの出演者が、劇団の主辛者をはじめとする大物俳優さんばかりの豪華なキャストイングでした。皆さんがそれぞれ素晴らしい演技をされていたのですが、とりわけ、乙羽さんの迫真の演技は、子供心に深く感銘を受けました。例えば、私は演技など程遠く、監督や皆さんがご苦労をされたと思うのですが、悲しい場面には、私はもらい泣きをしたお陰をもつて、そのシーンを繕う事が出来ましたような次第です。

沢山の思い出の中で印象的でしたのは、本物の久保山さんファミリーとの出会いでした。実際の出来事から数年経ってクラク・インしましたので、三人姉妹は、私達より年長でいらしたのですが、それだけではなく、皆さんともすっかりと、きちんとしたイメージをお持ちでしたので、私達がより小さく感じられました。今振り返ってみても、お母様のご立派に毅然とお育てになられたという事は、本当にご努力の方でいらしたと拝察致します。あれから、長い歳月が経ちました。が、いつか又、ご姉妹とお目にかかりたいと思っております。

一九九八年の今年には、「第五福竜丸」本体の保存を正式に開始されてから三十年を迎えられると伺いました。展示館に携わっておられる皆様方の日ごろのご苦労・ご努力に心から敬意を表したく、又

感謝の念で一杯でございます。本当に有り難い事と存じます。そして、もっともっと、多くの方にあの事実を理解して頂きたいと思えます。今の日本には、さまざまな事件、事故が起こっておりますが、心新たに、平和というものを考えて頂く良い機会だと思っております。私は、このように重大な意義を持つ映画に出られまして事をとってもらうべく、又誇りに思います。今、改めて新藤監督や皆様方に感謝の気持ち一杯です。この思いを持って、微力ながら何かの形で今後の保存等に協力させて頂くつもりです。関係者の皆様いろいろと有り難うございました。

(鎌倉市在住)



宇野重吉さん、乙羽信子さんと船上で。

### もらい泣きして演じたシーンも ——「第五福竜丸」の映画に出演して

寺村優子

私が、ご縁がありまして、新藤先生の監督作品「第五福竜丸」に出演させて頂きましたのは、小学校五年生の時でした。久保山愛吉さん役の宇野重吉さんとお母さん役の乙羽信子さんの長女役が私で、実妹の友子が次女で、そして同じお稽古場に通っていたらしく

## 環境問題と人間の未来②

### 二酸化炭素と海洋

猿橋 勝子

大気中の二酸化炭素は気体であることは言うまでもない。気体の二酸化炭素が海水に溶けると、水に溶けた二酸化炭素のほかに、炭酸水素イオン、炭酸イオン(総称して炭酸物質という)の三化学種が生成される。そのために海水中には、多量の炭酸物質が溶けている。その合計は、大気中に存在する二酸化炭素総量の約六十倍にもなる。しかし海水の主成分である塩化物イオンや、硫酸イオンに比べれば、その濃度はかなり低い。各種炭酸物質の存在の割合は海水の水温、塩分(塩素量)、pH等によって規定される。現状は、炭酸水素イオンが最も多く、全炭酸物質の九十%以上をしめ、とくに中・深層水では、ほぼ九十四%の一定値となる。このことは、海水に新たに炭酸物質が加えられても、塩分、水温、pH等に応じて、大部分は炭酸水素イオンに転化する

ことを意味する。地球表面の三分の二は海面である。大気と表面海水との間で、二酸化炭素の分圧差に応じて、分圧の高い方から、低い方へと物質は流れているはずである。しかし日本では長い間、大気中の二酸化炭素量の変動には関心が薄く、一般に大気中の二酸化炭素量は、比較的一定に保たれているとされてきた。化石燃料等の燃焼によって大気中に放出された二酸化炭素の余分は、多分表面海水が吸収していると考えられていた。というのは前述のように海水中には、多量の炭酸物質がとけていて、さらに海底には多量の炭酸カルシウム・マグネシウムの堆積があり、その量は海水中に溶けている炭酸物質量の六〇〇倍とも一〇〇〇倍とも言われている。つまり海洋は多量の炭酸物質の貯蔵庫であり、これに比べると大気中に年々放出され

る二酸化炭素量はわずかであり当然、海洋がこれを吸収・調整しているであろうと考えられてきた。しかし海洋の二酸化炭素の吸収能力についても多く無関心のまま、あまり定量的に解明されていない。海洋は単なる塩水の溜り場ではなく、多くの生物が生存している。したがって、沢山の無機元素・化合物とともに、少量の有機化合物が溶存し循環している。また生物資源だけでなく、鉱物資源の宝庫でもある。海水中では植物プランクトンの光同化作用によって、炭酸物質の一部は有機物となる。溶存有機物については、すでにアミノ酸、糖類、脂質、腐食質、蛋白質などの存在が知られている。これらは植物プランクトンなどの分解生成物で、最終的には海水中の溶存酸素により酸化分解され、再び無機の炭酸物質となる。つまり海水中の溶存炭酸化合物は、無機形から有機形に、そして再び無機形に戻る循環を繰り返している。生物活動を含めて動的な科学平衡のなかにある。しかし海水には多量のナトリウム、マグネシウム等の無機元素が溶けており、極微量の溶存有

機物の分析・定量は難しく、かなり小さな値が報告されてきた。大気中の二酸化炭素濃度の解明には、全地球的な立場から炭素化合物の動向を知ることが必要であると考へ、私たちは有機炭素の正確な測定を試みた。その結果分ったことは、海水中の溶存炭素は無機形が九十%以上であるが、無機炭素は表層で少なく深さ千メートルまで次第に増加し、それ以上はほぼ一定であるのに対し、有機形は表層ではやや多いが、しだいに減少し千メートル以深ではごく少量となる。そして溶存している無機と有機の炭素の合計は、海洋の各深さにおいてほぼ一定であることが分った。無機物の一部は有機物となり、有機物濃度は高くなるが、その分だけ無機物は減るといって、両者が動的平衡にあることを確認した。大気中では二酸化炭素は植物の光同化作用によって消費される。一方生物の呼吸や有機物の酸化分解によって、二酸化炭素が放出される大循環がおこなわれている。(つづく)。(当協会理事・元日本学術会議会員)